

1. 人 口

C 0 1 0 1 - 1 人口総数及び増加数

本市の平成 17 年から令和 2 年までの人口の推移は、平成 17 年の 54,699 人から 5 年毎に 1,858 人から 2,713 人の減少で、15 年間全体では 6,909 人の減少である。また、15 年間の人口増減率を見ると、5 年毎に 3.4~5.1%の減少である。

令和 2 年における用途地域指定区域の人口は 46,633 人で、都市計画区域面積 (7,919ha) の 19.1% にあたる用途地域指定区域内 (1,513ha) に、行政区域人口 (47,790 人) の 97.6% が集中している。平成 17 年から令和 2 年にかけて、5 年毎の人口増減率はそれぞれ 3.4%減、4.9%減、4.8 減である。

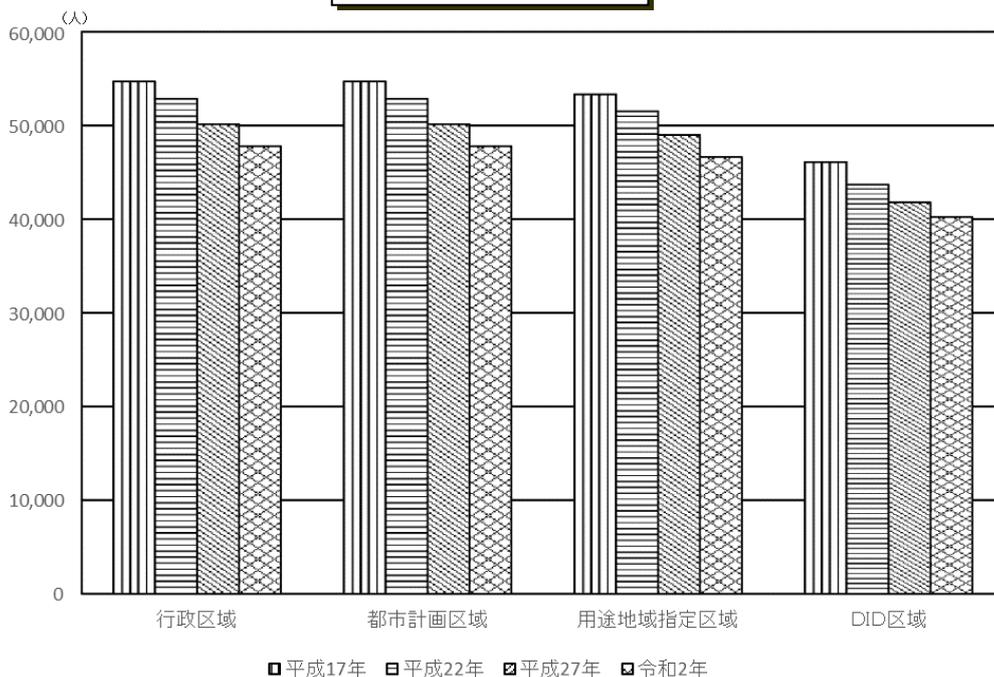
図表 1 - 1 人口総数及び増加数

資料:国勢調査

	平成17年 人口	17年～22年 の増減		平成22年 人口	22年～27年 の増減		平成27年 人口	平成27年～令和2年 の増減		令和2年 人口
		人口	率		人口	率		人口	率	
行政区域	人 54,699	人 △ 1,858	% △ 3.4	人 52,841	人 △ 2,713	% △ 5.1	人 50,128	人 △ 2,338	% △ 4.7	人 47,790
都市計画区域	54,699	△ 1,858	△ 3.4	52,841	△ 2,713	△ 5.1	50,128	△ 2,338	△ 4.7	47,790
用途地域指定区域	53,316	△ 1,805	△ 3.4	51,511	△ 2,524	△ 4.9	48,987	△ 2,354	△ 4.8	46,633
うちDID区域	46,082	△ 2,405	△ 5.2	43,677	△ 2,621	△ 6.0	41,056	△ 831	△ 2.0	40,225
用途地域指定外区域	1,383	△ 53	△ 3.8	1,330	△ 189	△ 14.2	1,141	16	1.4	1,157

図表 1 - 2 人口総数及び増加数

人 口 の 推 移



C0101-2 年齢・性别人口

平成17年から令和2年にかけての年齢别人口の推移は、年少人口と生産年齢人口は減少傾向である。令和2年における年少人口は5,452人で、平成17年の7,581人と比べ28.1%減少、生産年齢人口は15年間で24.0%減少している。それに対し、老年人口は平成17年から令和2年にかけて23.1%増加している。

また年齢構成指数では、平成17年から令和2年までの15年間で老年人口指数は24.7%の増加、年少人口指数は1.2%の減少で、年少人口指数より老年人口指数の方が43.2%も上回っている。老年化指数は、県平均266.4%より36.6%上回る303.0%と高い数値を示している。

図表1-3 他都市における年齢别人口構成比（令和2年）

資料：国勢調査

	構 成 比 (注1)			指 数 (注2)			
	年 少 人 口	生 産 年 齢 人 口	老 年 人 口	年 少 人 口	老 年 人 口	従 属 人 口	老 年 化 指 数
	%	%	%	%	%	%	%
長 野 県	12.1	55.7	32.2	21.7	57.8	79.6	266.4
長 野 市	12.1	57.2	30.7	21.2	53.6	74.8	253.0
松 本 市	12.8	59.0	28.3	21.6	47.9	69.5	221.4
上 田 市	12.1	56.9	31.0	21.2	54.5	75.8	257.0
岡 谷 市	11.5	53.8	34.7	21.3	64.5	85.8	303.0
飯 田 市	12.7	54.3	33.0	23.5	60.7	84.2	258.5
諏 訪 市	12.3	56.5	31.2	21.8	55.2	77.0	253.7
須 坂 市	12.2	55.2	32.5	22.2	58.9	81.0	265.8
小 諸 市	11.6	54.6	33.8	21.3	61.9	83.1	291.1
伊 那 市	12.5	55.8	31.6	22.4	56.6	79.1	252.5
駒 ヶ 根 市	12.4	56.4	31.2	22.0	55.3	77.3	251.0
中 野 市	12.1	55.3	32.6	21.9	58.8	80.7	268.8
大 町 市	9.6	51.6	38.8	18.7	75.1	93.8	402.1
飯 山 市	10.3	51.5	38.2	19.9	74.1	94.0	371.7
茅 野 市	12.7	56.6	30.7	22.4	54.3	76.8	242.0
塩 尻 市	12.5	58.7	28.7	21.4	48.9	70.3	229.1
佐 久 市	12.9	55.9	31.2	23.1	55.8	78.8	241.7
千 曲 市	11.8	54.7	33.5	21.5	61.3	82.8	285.3
東 御 市	12.1	56.9	31.0	21.3	54.5	75.8	255.6
安 曇 野 市	12.2	55.8	32.0	21.8	57.3	79.1	263.4

※小数点第2位以降は表示しない

(注1) 年少人口：0～14歳 生産年齢人口：15～64歳 老年人口：65歳以上

(注2) 年少人口指数＝年少人口／生産年齢人口×100

老年人口指数＝老年人口／生産年齢人口×100

従属人口指数＝(年少人口＋老年人口)／生産年齢人口×100

老年化指数＝老年人口／年少人口×100

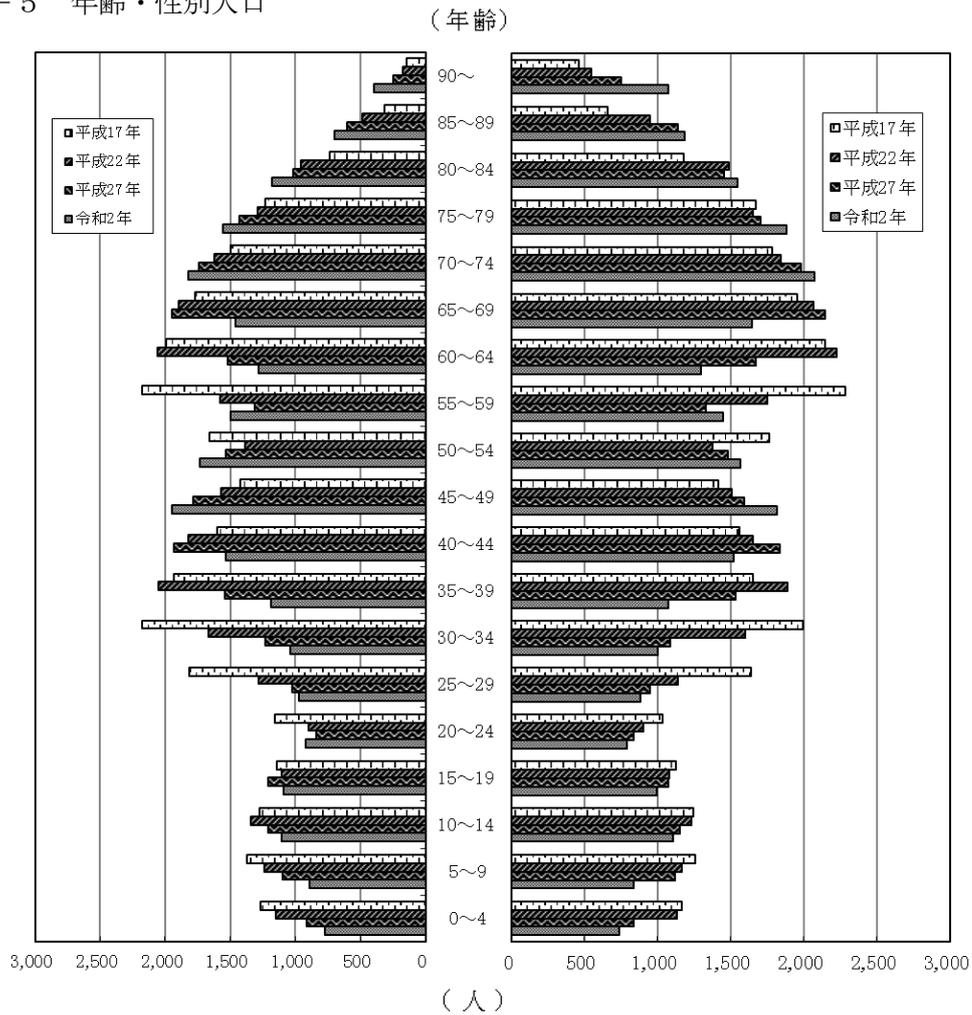
図表 1 - 4 年齢・性別人口

資料：国勢調査

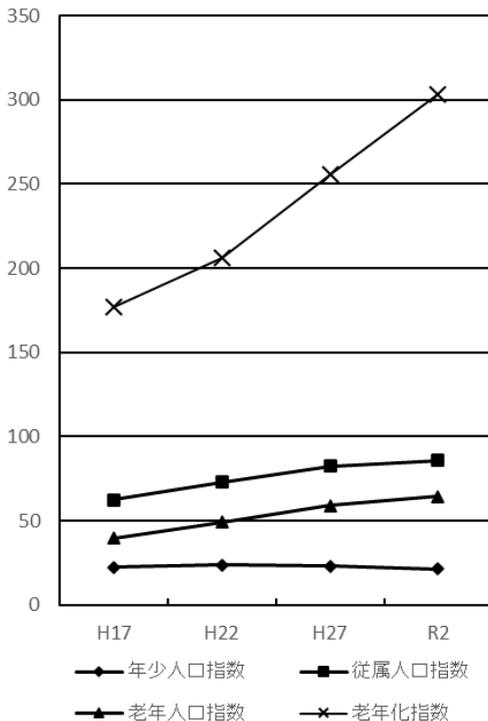
(単位：人)

年 齢	平 成 17 年			平 成 22 年			平 成 27 年			令 和 2 年		
	総 計	男	女	総 計	男	女	総 計	男	女	総 計	男	女
0～4	2,436	1,269	1,167	2,283	1,149	1,134	1,748	913	835	1,513	772	741
5～9	2,628	1,370	1,258	2,405	1,238	1,167	2,219	1,098	1,121	1,730	892	838
10～14	2,517	1,273	1,244	2,572	1,342	1,230	2,360	1,210	1,150	2,209	1,103	1,106
年少人口	7,581	3,912	3,669	7,260	3,729	3,531	6,327	3,221	3,106	5,452	2,767	2,685
15～19	2,269	1,141	1,128	2,183	1,105	1,078	2,287	1,211	1,076	2,084	1,089	995
20～24	2,194	1,161	1,033	1,797	896	901	1,674	840	834	1,711	920	791
25～29	3,450	1,812	1,638	2,422	1,284	1,138	1,973	1,026	947	1,856	972	884
30～34	4,172	2,176	1,996	3,268	1,670	1,598	2,315	1,229	1,086	2,040	1,041	999
35～39	3,589	1,934	1,655	3,936	2,048	1,888	3,079	1,544	1,535	2,261	1,188	1,073
40～44	3,162	1,602	1,560	3,472	1,820	1,652	3,773	1,936	1,837	3,057	1,538	1,519
45～49	2,840	1,425	1,415	3,084	1,574	1,510	3,382	1,787	1,595	3,763	1,948	1,815
50～54	3,425	1,660	1,765	2,763	1,388	1,375	3,016	1,536	1,480	3,301	1,736	1,565
55～59	4,459	2,177	2,282	3,329	1,580	1,749	2,642	1,314	1,328	2,952	1,501	1,451
60～64	4,136	1,992	2,144	4,284	2,060	2,224	3,190	1,517	1,673	2,584	1,283	1,301
生産年齢人口	33,696	17,080	16,616	30,538	15,425	15,113	27,331	13,940	13,391	25,609	13,216	12,393
65～69	3,729	1,771	1,958	3,968	1,897	2,071	4,094	1,949	2,145	3,105	1,461	1,644
70～74	3,284	1,499	1,785	3,466	1,620	1,846	3,723	1,738	1,985	3,894	1,820	2,074
75～79	2,906	1,233	1,673	2,944	1,292	1,652	3,139	1,432	1,707	3,442	1,556	1,886
80～84	1,918	739	1,179	2,446	960	1,486	2,474	1,018	1,456	2,724	1,177	1,547
85～89	975	317	658	1,430	484	946	1,744	603	1,141	1,885	699	1,186
90～	610	146	464	721	176	545	1,007	253	754	1,472	396	1,076
老年人口	13,422	5,705	7,717	14,975	6,429	8,546	16,181	6,993	9,188	16,522	7,109	9,413
年齢不詳	-	-	-	68	42	26	289	176	113	207	121	86
総 計	54,699	26,697	28,002	52,841	25,625	27,216	50,128	24,330	25,798	47,790	23,213	24,577

図表 1 - 5 年齢・性別人口



図表 1 - 6 年齢構成指数の推移 (%)



図表 1 - 7 年齢構成指数の推移 (単位: %)

	年少人口指数	従属人口指数	老年人口指数	老年化指数
平成17年	22.5	62.3	39.8	177.0
平成22年	23.8	73.0	49.3	206.2
平成27年	23.1	82.4	59.2	255.7
令和2年	21.3	85.8	64.5	303.0

※年少人口指数=年少人口/生産年齢人口*100

老年人口指数=老年人口/生産年齢人口*100

従属人口指数=(年少人口+老年人口)/生産年齢人口*100

老年化指数=老年人口/年少人口*100

C0102 人口集中地区（D I D）

本市の人口集中地区の推移をみると、区域面積は昭和 60 年以降増加に転じ、平成 17 年には、1,155.1ha を記録した。平成 22 年以降は減少傾向に転じ、区域面積は平成 27 年に 1,107.0ha（73.2%）となっている。

人口については平成 7 年の 49,076 人を最高に以降は減少が続いている。

図表 1－8 人口集中地区（D I D）人口の推移

資料：国勢調査

	人口集中地区			用途地域指定区域		用途地域指定区域に対する比率	
	面積 (ha)	人口 (人)	人口密度 (人/ha)	面積 (ha)	人口 (人)	面積ベース (%)	人口ベース (%)
昭和 55 年	989.8ha	48,133人	48.6人/ha	—	—	—	—
昭和 60 年	972.6ha	47,314人	48.6人/ha	1,502.0ha	60,739人	64.8%	77.9%
平成 2 年	1,080.1ha	48,406人	44.8人/ha	1,505.0ha	58,720人	71.8%	82.4%
平成 7 年	1,141.9ha	49,076人	43.0人/ha	1,513.0ha	56,876人	75.5%	86.3%
平成 12 年	1,154.9ha	46,934人	40.6人/ha	1,513.0ha	55,142人	76.3%	85.1%
平成 17 年	1,155.1ha	46,082人	39.9人/ha	1,513.0ha	53,316人	76.3%	86.4%
平成 22 年	1,128.7ha	43,677人	38.7人/ha	1,513.0ha	51,511人	74.6%	84.8%
平成 27 年	1,107.0ha	41,056人	37.1人/ha	1,513.0ha	48,987人	73.2%	83.8%

C0103 将来人口

回帰分析による将来人口の推計値は、行政区域及び都市計画区域では年々減少し、平成27年の50,128人から30年後の令和27年には31,525人～40,070人になると推計される。

一方、用途地域指定区域でも行政区域と同様な傾向が見られ、令和27年には平成27年の48,987人から37,040人～39,070人となると推計される。

図表1-9 人口の将来見通し

資料：国勢調査

行政区域		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年 (基準年次)	令和2年	令和7年 (10年後)	令和12年	令和17年 (20年後)	令和22年	令和27年 (30年後)	備考
		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
都市計画区域	実績値	58,056	56,401	54,699	52,841	50,128	47,790						
	1. 一次回帰							46,280	44,210	42,140	40,080	38,010	
	2. 指数回帰							46,670	44,890	43,190	41,540	39,960	
	3. 対数回帰							46,310	44,260	42,220	40,180	38,150	
	4. べき乗回帰							46,700	44,940	43,250	41,620	40,070	
	5. コーホート式							43,959	40,677	37,486	34,410	31,525	国立社会保障・人口問題研究所より抜粋
用途地域指定区域	実績値	56,876	55,142	53,316	51,511	48,987	46,633						
	1. 一次回帰							45,140	43,120	41,090	39,060	37,040	
	2. 指数回帰							45,540	43,800	42,130	40,520	38,970	
	3. 対数回帰							45,170	43,170	41,160	39,170	37,170	
	4. べき乗回帰							45,560	43,840	42,180	40,600	39,070	
	5. コーホート式												国立社会保障・人口問題研究所より抜粋

図表1-10 将来人口

資料：国立社会保障・人口問題研究所、国勢調査

(単位：人)

	平成27年			令和2年			令和7年			令和12年			令和17年			令和22年			令和27年			
	総数	男	女																			
総数	50,128	24,330	25,798	47,583	23,092	24,491	43,959	21,369	22,590	40,677	19,802	20,875	37,486	18,288	19,198	34,410	16,836	17,574	31,525	15,473	16,052	
年齢階級別	0～4	1,751	915	836	1,513	772	741	1,358	696	662	1,200	615	585	1,118	573	545	1,026	526	500	924	474	450
	5～9	2,229	1,103	1,126	1,730	892	838	1,541	776	765	1,329	669	660	1,176	592	584	1,096	552	544	1,007	507	500
	10～14	2,370	1,215	1,155	2,209	1,103	1,106	1,680	858	822	1,517	760	757	1,309	656	653	1,158	580	578	1,081	542	539
	15～19	2,295	1,215	1,080	2,084	1,089	995	1,945	971	974	1,491	771	720	1,346	683	663	1,161	589	572	1,027	521	506
	20～24	1,682	846	836	1,711	920	791	1,631	838	793	1,508	750	758	1,156	594	562	1,043	526	517	898	453	445
	25～29	1,985	1,035	950	1,856	972	884	1,982	1,071	911	1,841	982	859	1,713	894	819	1,315	708	607	1,186	627	559
	30～34	2,332	1,240	1,092	2,040	1,041	999	1,834	968	866	1,932	1,048	884	1,798	962	836	1,673	877	796	1,284	693	591
	35～39	3,094	1,554	1,540	2,261	1,188	1,073	1,814	932	882	1,739	902	837	1,834	978	856	1,710	899	811	1,592	819	773
	40～44	3,793	1,950	1,843	3,057	1,538	1,519	2,118	1,093	1,025	1,748	886	862	1,677	859	818	1,771	933	838	1,653	858	795
	45～49	3,403	1,802	1,601	3,763	1,948	1,815	2,919	1,462	1,457	2,074	1,081	993	1,713	877	836	1,646	851	739	1,739	925	814
	50～54	3,037	1,551	1,486	3,301	1,736	1,565	3,653	1,896	1,757	2,875	1,440	1,435	2,042	1,064	978	1,688	864	794	1,623	839	784
	55～59	2,663	1,329	1,334	2,952	1,501	1,451	3,217	1,688	1,529	3,518	1,813	1,705	2,775	1,381	1,394	1,970	1,020	950	1,630	829	801
	60～64	3,213	1,531	1,682	2,584	1,283	1,301	2,821	1,436	1,385	3,111	1,639	1,472	3,407	1,764	1,643	2,690	1,346	1,344	1,911	995	916
	65～69	4,120	1,965	2,155	3,105	1,461	1,644	2,466	1,225	1,241	2,715	1,373	1,342	2,998	1,571	1,427	3,284	1,691	1,593	2,595	1,291	1,304
	70～74	3,746	1,751	1,995	3,894	1,820	2,074	2,909	1,342	1,567	2,332	1,134	1,198	2,571	1,274	1,297	2,842	1,461	1,381	3,117	1,574	1,543
	75～79	3,160	1,443	1,717	3,442	1,556	1,886	3,563	1,626	1,937	2,671	1,207	1,464	2,148	1,025	1,123	2,374	1,156	1,218	2,630	1,330	1,300
	80～84	2,491	1,025	1,466	2,724	1,177	1,547	2,920	1,263	1,657	3,083	1,337	1,746	2,315	993	1,322	1,871	851	1,020	2,079	967	1,112
85～89	1,756	607	1,149	1,885	699	1,186	1,980	775	1,205	2,187	859	1,328	2,351	931	1,420	1,772	694	1,078	1,445	604	841	
90～	1,008	253	755	1,472	396	1,076	1,608	453	1,155	1,806	536	1,270	2,039	617	1,422	2,320	712	1,608	2,104	625	1,479	

※令和2年、令和7年～27年は国立社会保障・人口問題研究所公表数値、令和2年は令和2年国勢調査公表数値

【 人 口 推 計 参 考 資 料 】

回帰分析にあたり、
X:年(平成は昭和の年数に変換)
Y:X年における推計人口
とする。
平成12年から平成27年までの国勢調査データから導かれる回帰式は以下の通りである。

(1) 行政区域		決定係数
1. 一次回帰	$y = -346.94X + 750246.6$	0.9993
2. 指数回帰	$y = 15425683769.797 \times \text{EXP}^{(-0.00626006866900287 \cdot X)}$	0.9983
3. 対数回帰	$y = -694723.229455498 \text{LOG}(X) + 5336887.90819727$	0.9506
4. べき乗回帰	$y = 1.3481023967057E+46 \times X^{-12.5351548999033}$	0.9444
5. コーホート	国立社会保障・人口問題研究所より抜粋	
(2) 都市計画区		決定係数
1. 一次回帰	$y = -346.94X + 750246.6$	0.9993
2. 指数回帰	$y = 15425683769.797 \times \text{EXP}^{(-0.00626006866900287 \cdot X)}$	0.9983
3. 対数回帰	$y = -694723.229455498 \text{LOG}(X) + 5336887.90819727$	0.9506
4. べき乗回帰	$y = 1.3481023967057E+46 \times X^{-12.5351548999033}$	0.9444
5. コーホート	国立社会保障・人口問題研究所より抜粋	
(3) 用途地域指定		決定係数
1. 一次回帰	$y = -358.42X + 771947.3$	0.9999
2. 指数回帰	$y = 30864824015.5263 \times \text{EXP}^{(-0.00661818899644974 \cdot X)}$	0.9994
3. 対数回帰	$y = -717724.991742738 \text{LOG}(X) + 5510462.70436085$	0.9568
4. べき乗回帰	$y = 3.07516080267083E+48 \times X^{-13.252502452605}$	0.9568

回帰式の特徴

一次回帰 …… X が 2 倍変化すれば Y も 2 倍変化する。

X の増加 1 に対し Y の増分量は係数分 (1.1) 増える。 $Y = (1.1) X$

指数回帰 …… 一定の年数がたつ毎に一定の割合で増加または減少する。

X の増加 1 に対し Y の増分量は係数 (1.1 倍) となる。 $Y = (1.1)^X$

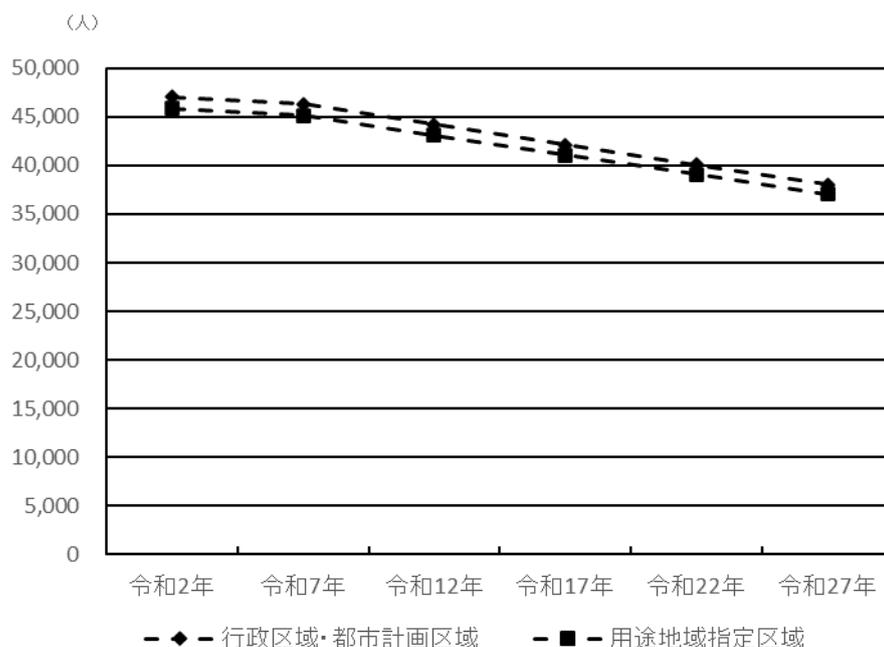
対数回帰 …… X の変化に比べ Y の変化が穏やかである。

$Y = \text{Iog}(X)$

べき乗回帰 …… 過去の実績値と比較的にあてはまりがよい。

$Y = a \times X^b$

図表 1-1-1 人口の将来推計の推移



※ 4つの計算式のうち、決定係数の最も高い一次回帰を用いている。

C0104 人口増減

本市の人口動態の推移をみると、各年で死亡者数が出生数を上回っており、自然減となっている。

社会増についても、各年で転出者数が転入者数を上回っており社会減となっている。また、人口増加数についても自然減、社会減により各年で減少している。

図表1-12 人口増減の内訳（行政区域・都市計画区域）（単位：人） 資料：住民基本台帳

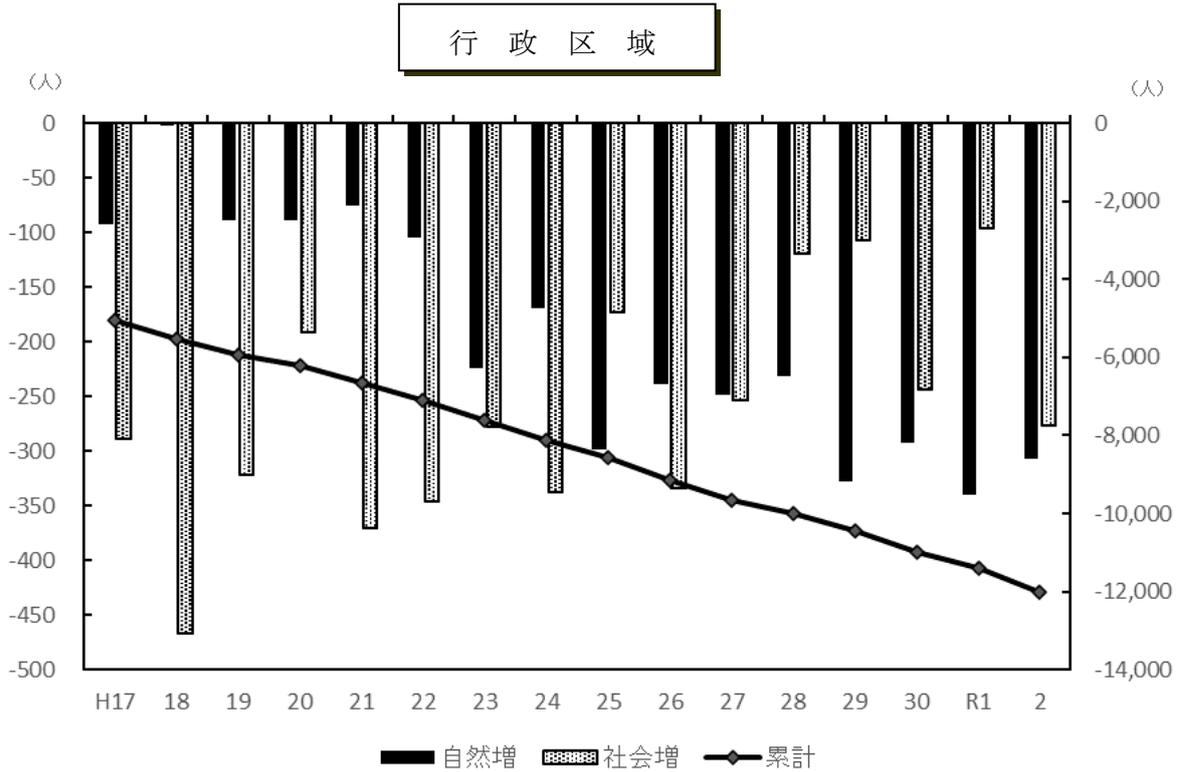
行政区域	年		H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年
	区域	出生数		483	529	482	463	428	456	367
死亡者数			576	531	571	552	503	561	591	580
自然増			△ 93	△ 2	△ 89	△ 89	△ 75	△ 105	△ 224	△ 169
転入者数			2,245	2,020	1,943	1,741	1,615	1,564	1,493	1,413
転出者数			2,534	2,487	2,265	1,932	1,985	1,910	1,771	1,750
社会増			△ 289	△ 467	△ 322	△ 191	△ 370	△ 346	△ 278	△ 337
都市	その他の異動		△ 15	6	14	8	1	16	18	△ 83
	人口増加数		△ 397	△ 469	△ 411	△ 280	△ 445	△ 451	△ 502	△ 506
	累計		△ 5,045	△ 5,514	△ 5,925	△ 6,205	△ 6,650	△ 7,101	△ 7,603	△ 8,109
計画区域	年		H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年
	出生数		370	349	343	356	319	320	326	287
死亡者数		668	588	592	587	647	612	666	594	
自然増		△ 298	△ 239	△ 249	△ 231	△ 328	△ 292	△ 340	△ 307	
転入者数		1,403	1,366	1,402	1,421	1,418	1,337	1,524	1,278	
転出者数		1,576	1,700	1,656	1,541	1,525	1,581	1,620	1,555	
社会増		△ 173	△ 334	△ 254	△ 120	△ 107	△ 244	△ 96	△ 277	
その他の異動		△ 63	△ 20	0	△ 13	△ 16	△ 13	△ 5	△ 6	
人口増加数		△ 471	△ 573	△ 503	△ 351	△ 435	△ 536	△ 436	△ 584	
累計		△ 8,580	△ 9,153	△ 9,656	△ 10,007	△ 10,442	△ 10,978	△ 11,414	△ 11,998	

※ その他の異動とは調整人数のことである。

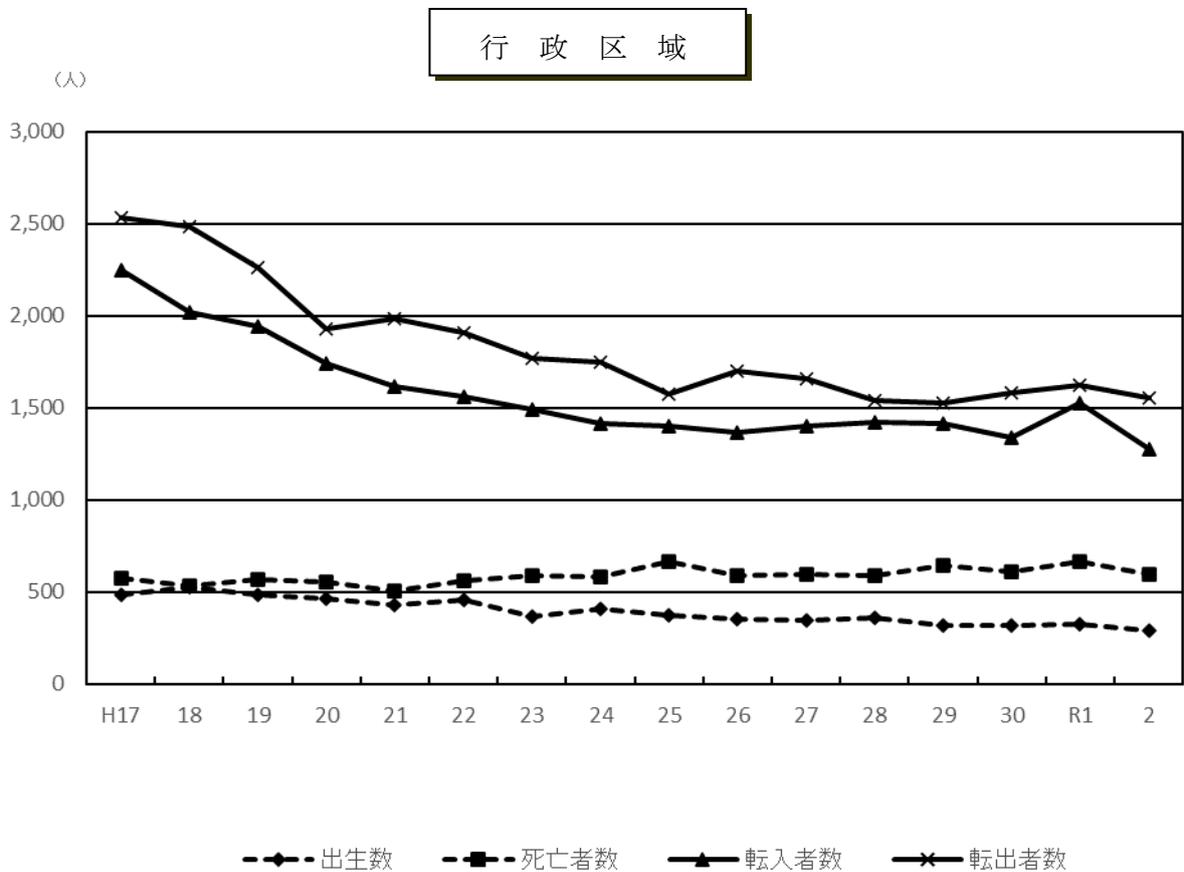
図表1-13 人口増減の内訳（用途地域指定区域）（単位：人） 資料：住民基本台帳

用途地域	年		H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年
	区域	出生数		478	524	477	458	423	451	363
死亡者数			559	515	554	536	488	544	584	573
自然増			△ 81	9	△ 77	△ 78	△ 65	△ 93	△ 221	△ 167
転入者数			2,200	1,980	1,905	1,707	1,583	1,533	1,475	1,396
転出者数			2,483	2,437	2,219	1,893	1,945	1,872	1,750	1,729
社会増			△ 283	△ 457	△ 314	△ 186	△ 362	△ 339	△ 275	△ 333
指定区域	人口増加数		△ 364	△ 448	△ 391	△ 264	△ 427	△ 432	△ 496	△ 500
	累計		△ 5,227	△ 5,675	△ 6,066	△ 6,330	△ 6,757	△ 7,189	△ 7,685	△ 8,185
	年		H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年
出生数		366	345	339	352	315	317	322	284	
死亡者数		660	581	585	580	639	605	658	587	
自然増		△ 294	△ 236	△ 246	△ 228	△ 324	△ 288	△ 336	△ 303	
転入者数		1,386	1,350	1,385	1,404	1,401	1,321	1,506	1,263	
転出者数		1,557	1,680	1,636	1,523	1,507	1,562	1,601	1,536	
社会増		△ 171	△ 330	△ 251	△ 119	△ 106	△ 241	△ 95	△ 273	
人口増加数		△ 465	△ 566	△ 497	△ 347	△ 430	△ 529	△ 431	△ 576	
累計		△ 8,650	△ 9,216	△ 9,713	△ 10,060	△ 10,490	△ 11,019	△ 11,450	△ 12,026	

図表 1-14 人口増減の推移



図表 1-15 自然増、社会増の推移



C0105 通勤・通学移動

本市の平成12年から平成27年までの就業者の流出・流入別人口の推移は、流出人口は増加、流入人口は減少傾向にある。また、平成12年は流出人口が8,269人、流入人口が8,950人と681人の流入超過であったが、流出人口と流入人口の差が年々縮まってきていて、平成22年に流出超過となり、平成27年には、流出人口が8,530人、流入人口が8,040人で490人の流出超過となっている。

平成27年における流出先の第1位は諏訪市の2,702人で、第2位が下諏訪町の1,851人となっており、この両市町で全流出就業者の53.4%を占めている。また、流入先においては第1位が下諏訪町の1,988人、第2位が諏訪市の1,839人と流出先と同様にこの両市町で全流入就業者の47.6%を占めている。

図表1-16 流出・流入別人口の推移（就業者）

資料：国勢調査

年	常住地による就業者数 人	流出		従業地による就業者数 人	流入		従/常 就業者比 %
		就業者数 人	流出率 %		就業者数 人	流入率 %	
平成12年	30,209	8,269	27.4	30,890	8,950	29.0	102.3
平成17年	27,928	8,541	30.6	27,988	8,601	30.7	100.2
平成22年	25,173	8,526	33.9	24,897	8,168	32.8	98.9
平成27年	23,992	8,530	35.6	23,518	8,040	34.2	98.0

図表1-17 流出先・流入先別人口の推移（就業者）

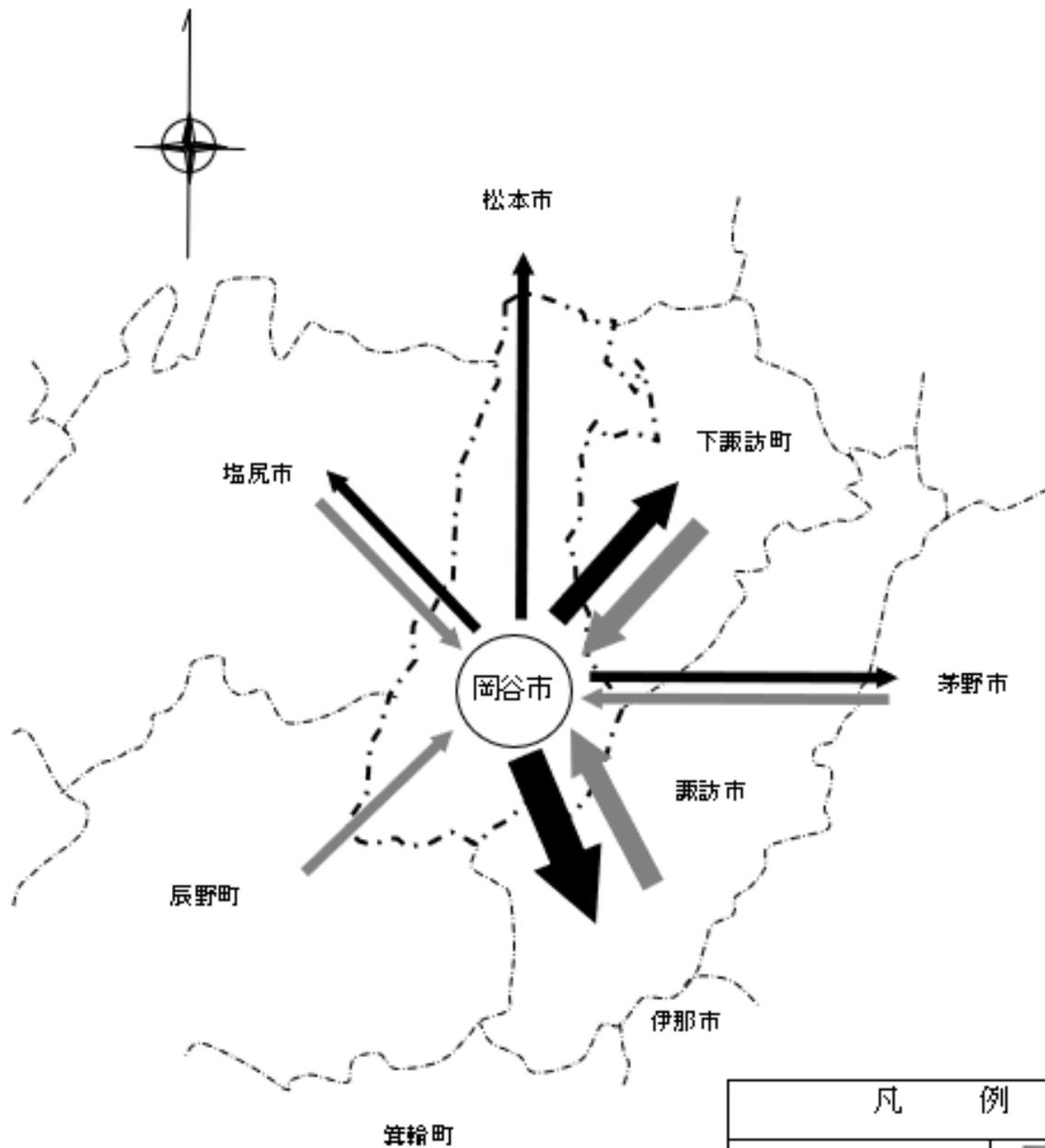
資料：国勢調査

年	流出先														
	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
	市町村名	流出者数 人	流出率 %												
平成12年	諏訪市	2,762	9.8	下諏訪町	1,884	6.3	茅野市	748	3.0	松本市	703	2.9	塩尻市	567	1.8
平成17年	諏訪市	2,757	10.4	下諏訪町	1,895	6.7	茅野市	854	3.3	松本市	704	3.1	塩尻市	637	2.2
平成22年	諏訪市	2,771	11.0	下諏訪町	1,861	7.4	茅野市	903	3.6	松本市	691	2.7	塩尻市	689	2.7
平成27年	諏訪市	2,702	11.3	下諏訪町	1,851	7.7	茅野市	937	3.9	塩尻市	718	3.0	松本市	654	2.7

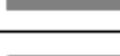
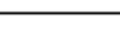
年	流入先														
	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
	市町村名	流入者数 人	流入率 %												
平成12年	下諏訪町	2,491	8.9	諏訪市	1,809	7.1	辰野町	1,201	4.5	茅野市	851	3.6	塩尻市	813	3.2
平成17年	下諏訪町	2,185	7.8	諏訪市	1,792	6.8	辰野町	1,036	3.7	塩尻市	823	3.5	茅野市	780	3.2
平成22年	下諏訪町	2,051	8.2	諏訪市	1,800	7.2	辰野町	918	3.7	塩尻市	854	3.4	茅野市	788	3.2
平成27年	下諏訪町	1,988	8.5	諏訪市	1,839	7.8	塩尻市	873	3.7	辰野町	858	3.6	茅野市	784	3.3

- 注1 常住地による就業者数とは、当該都市に常住する(夜間人口ベース)就業者をいう。
 従業地による就業者数とは、当該都市に従業する(昼間人口ベース)就業者をいう。
 注2 流出率＝流出就業者数／常住地による就業者数×100
 流入率＝流入就業者数／従業地による就業者数×100
 注3 (従/常)就業者比率＝従業地による就業者数／常住地による就業者数×100

図表 1 - 1 8 流出・流入状況図（平成 27 年 就業者）



 流出
 流入

凡 例	
3,000人以上	
2,500～3,000人未満	
2,000～2,500人未満	
1,500～2,000人未満	
1,000～1,500人未満	
500～1,000人未満	
500人未満	

本市の平成12年から平成27年までの通学者の流出・流入別人口の推移は、流出人口は減少後増加、流入人口は減少傾向にある。また、平成12年は流出人口が1,303人、流入人口が1,368人と65人の流入超過であったが、平成22年には流出超過となり、平成27年には流出人口が1,276人、流入人口が1,112人で164人の流出超過となっている。

平成27年における流出先の第1位は松本市の343人で、第2位が諏訪市の340人となっている。また、流入先においては第1位が諏訪市の293人、第2位が茅野市の233人となっている。

図表1-19 流出・流入別人口の推移（通学者）

資料：国勢調査

年	常住地による通学者数	流 出		従業地による通学者数	流 入		従/常通学者比
		通学者数	流出率		通学者数	流入率	
	人	人	%	人	人	%	%
平成12年	2,499	1,303	52.1	2,564	1,368	53.4	102.6
平成17年	2,066	1,117	54.1	2,171	1,222	56.3	105.1
平成22年	2,003	1,126	56.2	1,962	1,076	54.8	98.0
平成27年	2,197	1,276	58.1	2,036	1,112	54.6	92.7

図表1-20 流出先・流入先別人口の推移（通学者）

資料：国勢調査

年	流 出 先														
	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率
		人	%		人	%		人	%		人	%		人	%
平成12年	諏訪市	446	17.8	松本市	268	10.7	茅野市	186	7.4	下諏訪町	167	6.7	富士見町	47	1.9
平成17年	諏訪市	372	18.0	松本市	236	11.4	茅野市	129	6.2	下諏訪町	118	5.7	富士見町	53	2.6
平成22年	諏訪市	372	18.6	松本市	283	14.1	下諏訪町	134	6.7	茅野市	128	6.4	富士見町	52	2.6
平成27年	松本市	343	15.6	諏訪市	340	15.5	茅野市	123	5.6	下諏訪町	116	5.3	塩尻市	66	3.0

年	流 入 先														
	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率
		人	%		人	%		人	%		人	%		人	%
平成12年	諏訪市	338	13.2	茅野市	241	9.4	下諏訪町	201	7.8	辰野町	148	5.8	塩尻市	143	5.6
平成17年	茅野市	273	12.6	諏訪市	270	12.4	下諏訪町	171	7.9	塩尻市	136	6.3	箕輪町	84	3.9
平成22年	諏訪市	230	11.7	茅野市	225	11.5	塩尻市	177	9.0	下諏訪町	136	6.9	辰野町	81	4.1
平成27年	諏訪市	293	14.4	茅野市	233	11.4	下諏訪町	143	7.0	下諏訪町	111	5.5	辰野町	83	4.1

注1:常住地による通学者数とは、当該都市に常住する(夜間人口ベース)通学者をいう。

従業地による通学者数とは、当該都市に従業する(昼間人口ベース)通学者をいう。

注2:流出率=流出通学者数/常住地による通学者数*100

流入率=流入通学者数/従業地による通学者数*100

注3:(従/常)通学者比率=従業地による通学者数/常住地による通学者数*100

図表 1 - 2 1 流出・流入状況図（平成 27 年 通学者）

